

No.15

京林大だより



絵:卒業生 熊走君

遠隔地からも入学希望者！ 3回目のオープンキャンパス開催 ＜8月2日（土）午前11:00～＞

林業大学校で、平成27年度入学希望者を対象としたオープンキャンパスを8月2日（土）に開催しました。

第3回目となる今年度も京都府内はもちろん、北は北海道、南は熊本県までたくさんの入学希望者で賑わいました。

個別相談会場は終始、人が満員で座席が足りなくなるくらい。体験ブースでは高性能林業機械操作があり、男女問わず、積極的に参加していました。

今年度は過去最高となる60名の参加者があり、大盛況に終えることができました。



夏休みの出来事



2014 わちふるさと祭り 地元森林組合と連携し 林大★初出店★



8月25日（月）和知駅前広場などで開催されました「わちふるさと祭り」に京丹波森林組合と林業大学校が連携し、丸太切り体験コーナー（重さ当てゲーム）を出店しました。

今年は8月25日～29日の5日間、森林組合でインターンシップ研修をしている1年生3名も参加、ノコギリの取扱いなどの指導に大活躍しました。

体験コーナーは、幼児～小学生に大変人気となり、たくさんの方に参加していただきました。

今後も、地域と連携を大切に積極的に参加させていただきたいと思います。



今年度は京都担当 全国林業短期大学校連絡協議会 ＜8月7日（木）～8日（金）＞

全国の林業短期大学校（岐阜、京都、群馬、静岡、島根、長野、計6校）は、毎年持ち回りで参集し、相互の連携を図るとともに魅力ある大学校づくりについての諸課題等を協議しています。今年度は京都で開催され、学校の運営状況や学生の募集、就業に向けた取組等について各関係者と熱心に議論が交わされました。

今後の学校運営に大変参考となる有意義な場となりました。



校長室より

『土石流災害に思う』

校長 只木良也

台風、大雨、大風、洪水、土石流・・・

記録的とか气象台開設以来だとかの気象データが連日のこの夏でした。京都でも、丹波豪雨、福知山水害、京都市内でも道路冠水、16日の大文字点火も危ぶまれた豪雨。

そして、8月20日広島土石流災害のニュース。その特徴は、同じ山地の平行する何本もの小沢が、連続して土石流を起こしたこと。そして、被害の多くは新造成の住宅地。それも、うんと昔の土石流が作ったのではと推定される「扇状地」や沢の出口付近の・・・。

土は風化の進んだ花崗岩の「まさ土」。水に侵食されやすく、土砂崩壊にも弱い表層土、土石の流れとなって斜面を下るとき、大きな岩石、倒した立木などを巻き込み、破壊力は大きくなります。

とすれば、土石流には森林が無い方が良い？それは早合点と言うもの。森林は落葉を落として良い土を作り、降水をよく浸み込ませて、普段は地表面の侵食を防いでくれているのです。何？水を

★かがやく★1期生★

連載となりました！卒業生の追跡、第3弾！

今回は京都府の県庁所在地、京都市へ就職した立石君のところへ伺いました。



京都府立林業大学校を3月に卒業して、京都市森林組合の森林整備課で、主に利用間伐の伐採班で働いています。入社したばかりのときはチェーンソーや燃料を持って山を登るので疲れていました。最近は、少しずつですが、体力もついてきたと思います。技術面では、まだまだ半人前なので、職場の先輩方に色々教えてもらいながら、一日でも早く一人前になれるよう頑張っていきたいと思います。

林業大学校で学んだことが、日々仕事に活かされていると思います。特に安全な作業の大切さを、現場で働いて実感しています。これからも、林業大学校で学んだことを活かして事故や怪我のないように頑張りたいと思います。

よく浸み込ませる？ そのおかげで土が重くなって崩れるのでは？ これも早合点。浸み込んだ水は、土の中をゆっくりと動いて谷川へ出ますから、普段の降水なら、下流は急増水しないし、晴天続きでも水は涸れない、つまり河川水量平準化の働きをしてくれているのです。今回の土石流は、その程度を超えた豪雨の成せる業、と言わざるを得ませんが、これに至るまでの長年、水と土を護ってくれていた森林の働きを忘れてはいけません。

こんな誤解もありませんか。山を散策中、すっかり土砂に埋まったダム。「こんなに埋まったダム！失敗だね」。いえいえどうして、それは成功なのです。森林だけでは防げぬ侵食・土石流をここで食い止め、下流をその被害から護ってくれたのです。そしてダムに溜まった土砂は、谷川の勾配を緩めてくれているのです。これが「砂防ダム」なのです。

